

学長定例記者会見要項

日 時： 平成30年7月5日（木） 11:00～11:45

場 所： 法人本部第二会議室（小白川キャンパス法人本部棟4階）

発表事項

1. 平成30年「秋のレビュー」の地方開催について
2. 動物の快適性に配慮した安全な食肉生産
～AIを用いた肉用鶏の個体管理と清掃ロボットの開発～
3. 附属博物館が国立歴史民俗博物館と包括連携協定を締結
～山形の歴史文化資料の発信と資料保全意識の醸成を目的として～
4. 大学院生が「アフィニス夏の音楽祭」のプログラムを企画・運営
～最後の山形開催を盛り上げる学生たちの試み～
5. 最上義光発給文書2点を発見しました

お知らせ

1. 高校生向けの国際学術講演会のご案内
～人文社会科学部国際学術講演会「国連・国際機関で働くということ」～
2. 山形大学農学部夏期セミナー2018のお知らせ
3. 「21世紀の教育の創造—ほめる・叱るに替わる教育と子育て—」
～地域教育文化学部公開講座を開催について～
4. オペラ指揮者の阪哲朗氏による学生の公開レッスンを行います
～山形大学と山形交響楽団の連携による音楽教育推進事業～
5. 火星大接近観望会のお知らせ ～天文台で火星みてる？～
6. 学生達が1泊2日の英語キャンプに挑戦します

（参 考）

- 次回の学長定例記者会見（予定）

日 時：平成30年7月19日（木） 11:00～11:45

場 所： 法人本部第二会議室（小白川キャンパス法人本部棟4階）

学長定例記者会見（7月5日）発表者

1. 平成30年「秋のレビュー」の地方開催について

学術研究院 教授（企画評価、IR 担当）

あさの しげる
浅野 茂

2. 動物の快適性に配慮した安全な食肉生産 ～AIを用いた肉用鶏の個体管理と清掃ロボットの開発～

学術研究院 教授（生産機械学）

かたひら みつひこ
片平 光彦

大学院農学研究科 1年

いたばし か な
板橋 香奈

3. 附属博物館が国立歴史民俗博物館と包括連携協定を締結 ～山形の歴史文化資料の発信と資料保全意識の醸成を目的として～

学術研究院 准教授（博物館学） 附属博物館学芸研究員

さとう こと
佐藤 琴

4. 大学院生が「アフィニス夏の音楽祭」のプログラムを企画・運営 ～最後の山形開催を盛り上げる学生たちの試み～

大学院地域教育文化研究科 2年

なかざわ ゆい
中澤 唯

// 1年

おおえ ももこ
大江 桃子

// 1年

まつの ひであき
松野 秀映

5. 最上義光発給文書2点を発見しました

学術研究院 教授（日本史学）

まつお けんじ
松尾 剛次

平成30年（2018年）7月5日

平成30年「秋のレビュー」の地方開催について

【本件のポイント】

- 国の行政改革推進会議の下、平成30年の年次公開検証（秋のレビュー）を11月17日（土）に山形大学（小白川キャンパス）で実施することを、2018年6月29日（金）の閣議後会見において、梶山弘志（かじやまひろし）行政改革担当大臣が発表。
- 地方での開催は平成28年以来、3回目となり、東日本では初の開催となる。
- レビュー当日は地方会場と東京会場をテレビ会議システムで接続し、実際のレビューの様子をライブ中継する。

＜平成29年 徳島レビューの様相＞



【概要】

行政事業レビューとは、国の全ての事業（約 5,000 事業）について、事業を所管する各府省が自己点検を行うものである。各府省による自己点検終了後、各府省の点検が十分なものとなっているか、点検結果が的確に概算要求に反映されているか等について、行政改革推進会議の下、「秋のレビュー」と呼ばれる公開検証が実施される。

地方開催は、この「秋のレビュー」の一部として実施されるものであり、平成 28 年に初めて開催された「大阪レビュー」（会場：大阪大学）を皮切りに、昨年は「徳島レビュー」（会場：徳島大学）が開催され、本年は 3 回目（東北を含め東日本では初めて）の開催となる。山形レビュー in 山形大学は、平成 30 年 11 月 17 日（土）に山形大学小白川キャンパスで開催される。

【山形レビュー in 山形大学】 詳細は10月頃の行政改革推進会議において、正式決定される予定である。

日時： 平成 30 年 11 月 17 日（土）

場所： （山形会場） 山形大学小白川キャンパス基盤教育 2 号館 221 教室（山形市小白川町 1 - 4 - 1 2）
（東京会場） キャンパス・イノベーションセンター（予定）

【事業の推進体制】

- ・山形県はじめ地方自治体や県内企業等と密接に連携して企画・運営を進めるための実行委員会を立ち上げ、「オール山形」での推進体制を整備する。
- ・大学コンソーシアムやまがた[※]を通じて、学生を含めた幅広い協力体制を構築する。（学生コンペによる広報資料作成、学生及び一般市民を対象にした授業又は公開講座等のイベントの実施、レビュー当日の運営への学生参加など）
- ・4 キャンパス制の強みを活かし、地域創生、地域活性化に取組む教職員のネットワークを活用して、広範な広報と関係者の協力を得ながら、幅広い地域からの傍聴者を募る。

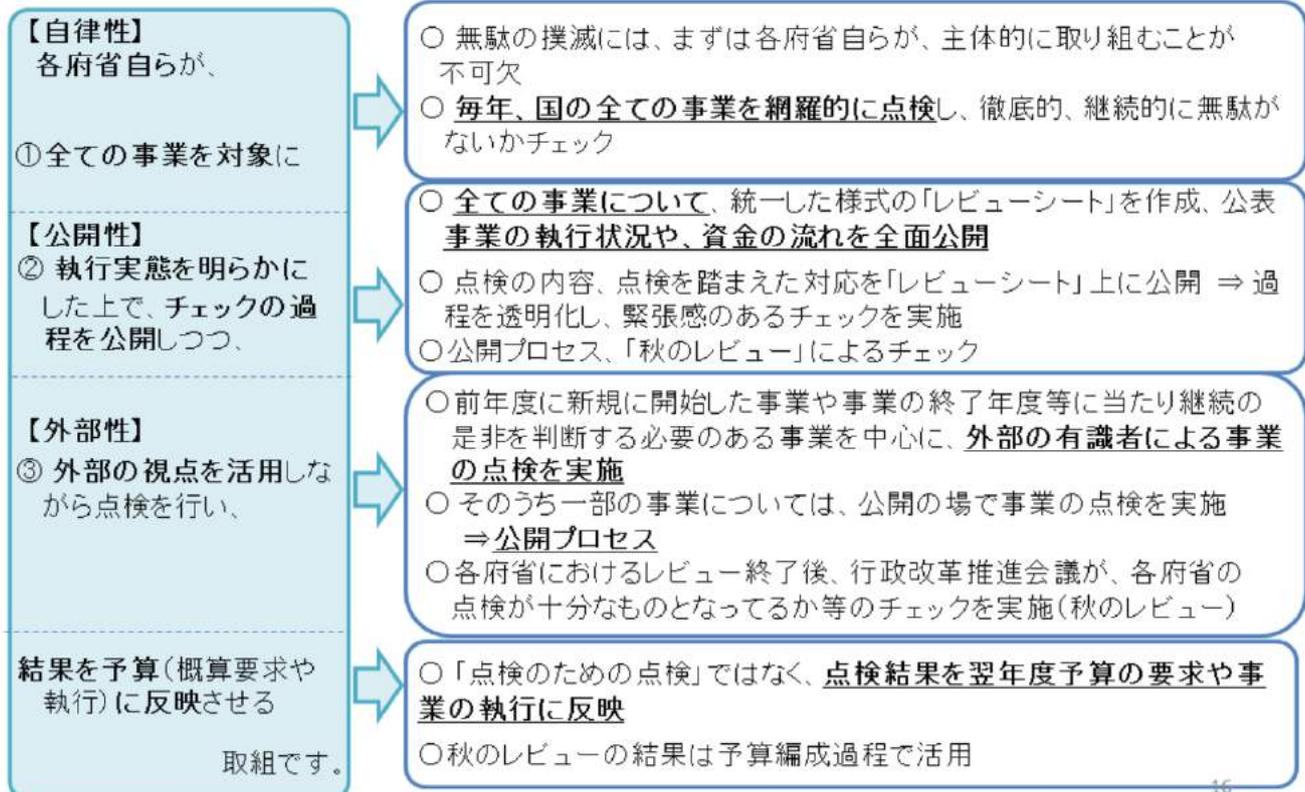
※ 大学コンソーシアムやまがたは、平成 16 年 4 月に設立された、山形県内の大学・短期大学・高等専門学校・放送大学等の教育機関と山形県の連合組織。相互に連携し交流を推進することにより、山形県内の高等教育の充実・発展を図るとともに、各大学の知的資源を有効に活用して地域社会に貢献することを目的としている。

お問い合わせ

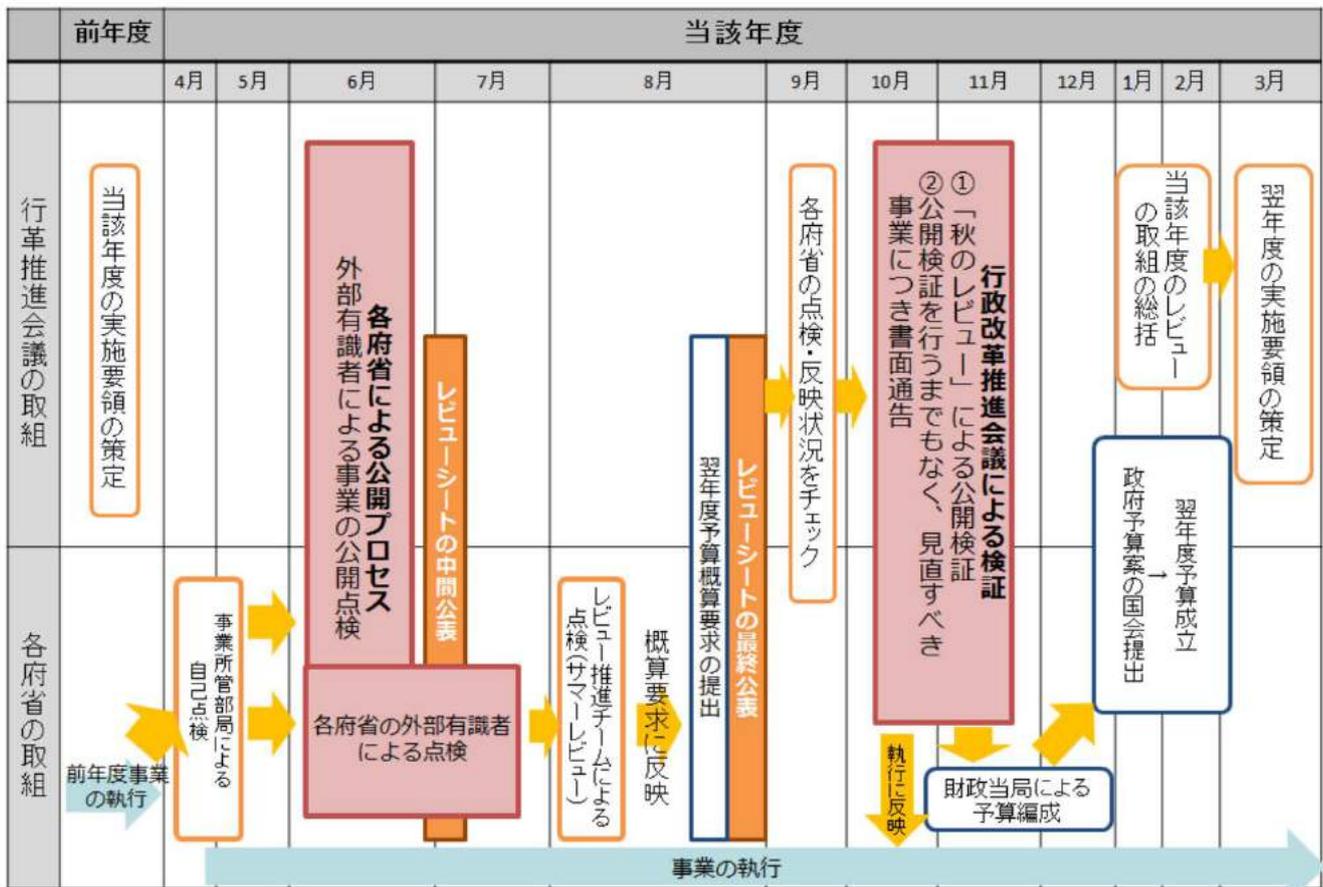
学術研究院教授（企画評価、IR 担当） 浅野 茂

TEL 023-628-4189 メール asano@cc.yamagata-u.ac.jp

行政事業レビューとは



行政事業レビューのスケジュール



平成30年（2018年）7月5日

動物の快適性に配慮した安全な食肉生産 ～AIを用いた肉用鶏の個体管理と清掃ロボットの開発～

【本件のポイント】

- 動物の快適性に配慮（アニマルウェルフェア）した安全で安心な食肉生産を実現することを目的に、AIを用いた肉用鶏の個体管理システムと清掃ロボットを開発した。
- 肉用鶏の個別管理や行動解析に対してIoTデバイスやAIの実装を行ったことはこれまで事例がなく、山形大学農学部の畜産学・生産機械学研究室の取り組みが国際食品工業展（FOOMA2018）で注目された。
- 肉用鶏の安全・安心な生産に向け、生産段階でのIoT化についての研究加速が期待される。



【概要】

山形大学の堀口健一教授（畜産学）・片平光彦教授（生産機械学）らの研究グループは、大規模飼養が進んでいる養鶏での家畜飼養時の快適性に配慮（アニマルウェルフェア）した安全で安心な食肉生産を実現することを目的に、肉用鶏の飼養密度の違いが行動に与える影響、その行動のAIによる分類、個別管理に向けた体重計測システム、清掃ロボットの開発を行いました。

肉用鶏生産では快適性の観点から低密度での飼養管理が好ましく、そこで発生する行動をAIで予測できる可能性を見出しました。個別管理にはRFIDタグとロードセル一体型受信機のシステムによる体重計測で対応します。鶏舎清掃には出荷後の敷料（おがくず）除去に用いる自走式4輪駆動ロボットを開発しました。

これらの技術は、肉用鶏以外でも牛、豚をはじめ様々な動物の飼育について応用でき、人手を介した作業の軽減に繋がることが期待されます。本研究は6月に東京ビッグサイトで開催された国際食品工業展2018 (FOOMA JAPAN 2018) で発表しました。

【背景】

国内の鶏肉生産は平成28年度で消費量2,369千トン、50万羽以上の大規模飼養者層が全体の11.3%と大規模化が進んでいます。生産現場では農水省が目標とする育成率98%や飼養時の快適性を実現する個体管理技術、施設への立ち入り制限や消毒の徹底による疾病対策が求められています。これらの課題を解決するにはIoTとAIを融合した高度な個別管理技術、ロボティクス技術の導入による生産管理の効率化が必要になっています。

【研究手法・研究成果】

個体管理の実験は固定式カメラで個体重や給餌量などを逐次記録し、状況を把握しました。撮像した動画から、特徴的な行動（飲水、飼料摂取、休息など）に分類したデータ（各1500枚）を作成し、AIを用いた行動分類を行いました。併せて、試作したRFID対応型体重計測システムと清掃ロボットを用い、体重計測と鶏舎の清掃を実施しました。

これまで、肉用鶏の飼育密度については、低密度の方がより生産性が高いと考えられてきましたが、今回の実験からは、飼育密度と生産性との関連はあまり見られませんでした。しかし、行動分析の結果から、肉用鶏生産では快適性（アニマルウェルフェア）の観点から低密度での飼養管理が好ましいことがわかりました。また、上記の特徴的な行動はAIで予測できる可能性を見出しました。行動の予測は、生産段階での飲水や摂取量の低下などの異常行動を早期に発見することが可能になり、生産性の改善に利用できます。RFIDタグとロードセル一体型受信機のシステムは肉用鶏の個々の体重を計測が可能であり、個別管理に利用できます。出荷後の敷料（おがくず）は自走式4輪駆動ロボットで除去（能率：0.77 kg/sec）します。

【今後の展望】

本技術は快適性に配慮した食肉生産に対してIoTを用いた高度な行動監視技術であるため、講演を行ったFOOMA2018でも畜産関係者やIoT企業、清掃関連企業などから大きな注目を集めました。開発した要素技術は肉用鶏以外でも牛、豚をはじめ様々な動物の飼育について人手を介在した作業の軽減に繋がることが想定され、全国的な経済効果が見込まれます。

1. アニマルウェルフェア：動物の心理的幸福の追求、生活の質の向上。畜産では快適性に配慮した家畜の飼養管理
2. FOOMA：国際食品工業展、東京ビッグサイトで開催される国際展示会で、本年はFOOMA JAPAN2018として、6/12～6/15に開催。来場者数は10万人。
3. RFID(Radio frequency identifier)：ID情報を埋め込んだRFタグから、電磁界や電波などを用いた近距離での無線通信によって情報をやりとりするデバイス。

お問い合わせ

学術研究院教授（生産機械学）片平 光彦

TEL 0235-28-2904 メール mkata43@tds1.tr.yamagata-u.ac.jp

養鶏におけるAIを用いた個体管理と清掃ロボットによる安全な食肉生産技術

Safe meat production system using AI technology with individual management and cleaning robot of poultry farming

板橋 香奈¹, 市浦 茂², 片平 光彦¹, 堀口 健一¹

1: 山形大学 農学部 食料生命環境学科, Department of Food, Life, and Environment Science, Faculty of Agriculture, Yamagata University 2: 岩手大学大学院連合農学研究科, The United Graduate School of Agricultural Science, Iwate University

1*: corresponding author 〒997-8555 鶴岡市若葉町1-23 Tsuruoka, Yamagata, 997-8555, Japan TEL(FAX): 0235-28-2904 E-mail: mkata43@tds1.tr.yamagata-u.ac.jp

背景



肉用鶏では飼育密度(推奨飼育密度: 55~60羽/坪)が高く、増体の悪化、飼料効率の悪化、死亡率の向上が問題(Mitrovic他, 2010)



生産性の悪化



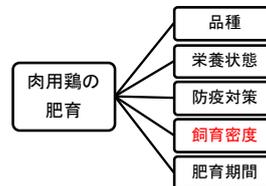
生産性の向上、畜産物の安全・安心



畜産におけるAnimal welfare(動物の幸せや生活の質の向上)快適性に配慮した家畜の飼養管理

・畜産施設の衛生管理は? ・飼育密度とAnimal welfareの関係は?

養鶏での家畜飼養時の快適性に考慮し、安全で安心な食肉生産を実現するため、AIを用いた鶏の個体管理と飼育密度の違いによる鶏の行動解析、清掃ロボットの開発を行う。



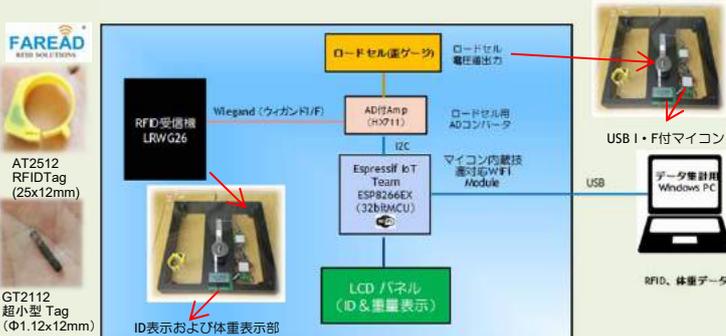
試験内容

1. 畜産施設清掃ロボットの開発

畜産施設内に敷設される敷料を除去する清掃ロボットと薬剤散布補助ロボットの開発



2. 鶏の行動解析による飼育の最適化



3. 肉用鶏の飼育密度と行動

- 供試動物 チャンキー種 (オス) 20羽
- 観察日齢 35日齢、65日齢
- 調査方法 ランダムに5羽を選別、行動観察
- 処理区: 標準区(60羽/坪), 約0.55m²/10羽 (35日齢) 約0.71m²/8羽 (65日齢)
低密度区(20羽/坪), 約1.66m²/10羽 (35日齢) 約1.81m²/8羽 (65日齢)
- 調査項目
 - ① 敵対行動
 - ② 休息行動 (立位/伏臥/睡眠)
 - ③ 摂取行動 (摂食/飲水)
 - ④ 身繕い行動(羽繕い/砂浴び)

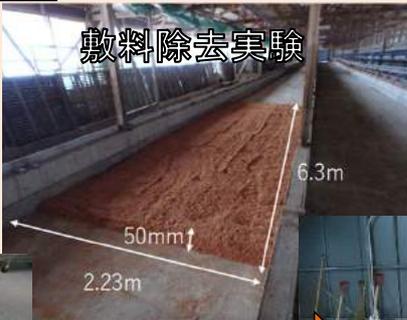


実験結果

1. 畜産施設清掃ロボットの開発



ローダ内におがくずが十分に堆積した場合に**170~200N**の荷重が発生!!



4輪駆動でPower UP 走行制御プログラムの適用→自律走行可

3号機の清掃実験では、自動走行プログラムを利用して敷料を**0.77 kg/sec**で除去



Next Step



洗浄ホース牽引ロボットの開発へ

2. 鶏の行動解析による飼育の最適化

模擬鶏舎

鶏の行動がカメラで撮影できるように亚克力板を透過、RFID受信機と連動した体重・体温測定システムを構築中

鶏に装着したRFIDから個体識別 (RFID読み込み済)

鶏舎全体が撮影できるように上部に広角カメラ設置

オス、メス混在 10羽

放水行動 (1,500枚)

RFID Tag	RFID製品型番	Tag ID	鶏個体重 (g)	測定値1(g)	測定値2(g)	鶏個体重との差(g)
リング状アンテナRFID Tag (25x12mm)	AT2512	4679028	1,844	1,900	2,120	-56~+276
リング状アンテナRFID Tag (25x12mm)	AT2512	9747259	2,476	2,122	2,501	-354~+25
超小型RFID Tag (φ 1.12x 12mm)	GT2112	32820	2,102	2,086	2,109	-16~+7

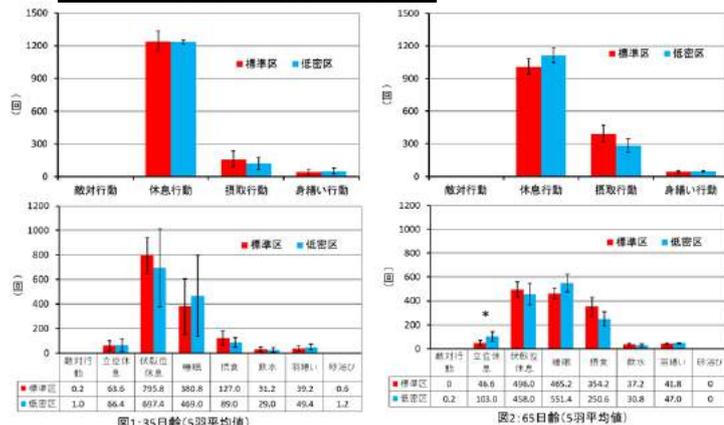
Chainer Deep Learningによる行動パターンのラベル化

Chainerでの学習 (500epochで飽和)

ChainerのCNNレイヤー

Deep LearningによるAIである程度の行動判別が可能

3. 鶏の飼育密度と行動



- 35日齢: すべてにおいて有意差なし
- 65日齢: **立位休息**が**低密度区**で有意に多い → 行動の前後に多く見られたため、より活発的な低密度区で多いと考えられる
- 睡眠が**低密度区**で多い傾向 (有意差なし) 休息の強さ: 立位休息 < 伏臥位休息 < 睡眠 → **低密度区**はしっかり体を休めることが可能
- 身繕い行動が**低密度区**で多い傾向 (有意差なし) → 身繕い行動はリラックス状態である時に時間を費やす行動

Animal welfareの観点から**低密度**での飼育が好ましい

表1: 各区の育成成績

	標準区	低密度区
体重 (kg)		
導入時		0.039 ± 0.002
供試個体選別時	0.481 ± 0.028	0.479 ± 0.021
試験開始時	0.944 ± 0.042	0.968 ± 0.049
試験終了時	4.715 ± 0.580	4.448 ± 0.477
増体量 (kg)		
試験期間中の期間増体 (BW)	3.663 ± 0.663	3.078 ± 0.491
試験期間中の日増体	0.078 ± 0.012	0.093 ± 0.035
試験期間中の飼料摂取量 (kg) (FI)	7.887	7.466
飼料効率 (BW/FI)	0.464	0.412

生産性
「飼育密度の増加に伴い、体重や飼料摂取量は低下する(山下ら, 1972)」→ 逆の結果が...

飼育密度以外の要因を追求



鶏舎敷料の除去に使用可能な**自走式ロボット**を開発できた。鶏の行動では**個体認識にRFID**を活用し、そのデータを基に体重を計測できるシステムを開発した。また、**画像データをAIで解析**し、行動の区別けに活用できる可能性が示唆された。鶏生産では**Animal welfare**の観点から**低密度での飼育**が好ましい。

平成30年（2018年）7月5日

附属博物館が国立歴史民俗博物館と包括連携協定を締結 ～山形の歴史文化資料の発信と資料保全意識の醸成を目的として～

【本件のポイント】

- 山形大学附属博物館（以下「附属博物館」と表記）は2018年3月に国立歴史民俗博物館^{*1}と包括連携協定を締結しました。（国立大学との協定では5大学目）**附属博物館では初の協定締結。**
- 本協定により、附属博物館だけでなく**山形大学および地域に伝わる貴重な歴史文化資料のさらなる活用を推進**していきます。
- さらに人間文化研究機構^{*2}が推進する「**歴史文化資料保全の大学・共同利用機関ネットワーク事業**」に参加し、山形における歴史文化資料の保全意識の醸成に努めていきます。



2017年度大学博物館等協議会シンポジウムに登壇する国立歴史民俗博物館の三上教授と附属博物館の佐藤（2017年6月）

【概要】

附属博物館は、大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館（千葉県佐倉市 以下「歴博」と表記）と2018年3月に包括連携協定を締結しました。歴博と附属博物館はこれまでも共同研究や共催事業を実施してきましたが、本協定の締結によって連携を強化し、特に下記の取り組みを推進していきます。

●歴博の「**総合資料学の創成**」に参画し、歴博が整備した情報基盤を用いて、山形大学および地域に所在する貴重な歴史文化資料の公開をすすめる。これらの資料はすでに山形内外に活用されているが、利便性の一層の向上と世界に向けた発信を目指す。まず昨年度に引き続き6月に**総合資料学奨励研究^{*3}**の採択を受け、研究課題「山形において近代に収集された歴史資料の研究と活用―長井政太郎収集文書と林泉文庫―」（代表：佐藤琴、副代表：後藤真准教授（歴博））をスタートさせた。

●人間文化研究機構が取り組む「**歴史文化資料保全の大学・共同利用機関ネットワーク事業**」に参画し、共同で授業や講座などを実施することによって、学生および市民に対して歴史文化資料の価値を周知させるとともに、防災意識を高めていく。

【背景】

近年の急激な社会変化や自然災害によって、これまで地域に守り伝えられてきた歴史文化資料は危機に瀕しています。その一方、情報技術の発展により、歴史研究における分野横断的な調査研究や情報発信などの新しい取り組みが可能となりました。

歴博の「**総合資料学の創成**」は、日本の歴史資料の活用による、人文学・自然科学・情報学の分野を超えた新たな日本史像の構築、学問領域の創成を目指すものです。

また、人間文化研究機構が2017年度から推進している「**歴史文化資料保全の大学・共同利用機関ネットワーク事業**」は、地域の知の拠点となる大学とのネットワークを構築することで、各地域に伝来する多様な歴史文化資料の保全と継承を進めていくことを目的としています。

【今後の展望】

附属博物館は90年以上の長きにわたって、地域の歴史文化資料を収集・保存し、研究者の利用に供し、その情報発信に努めてまいりました。本協定の締結により、山形の歴史文化資料のさらなる活用をはかるための情報基盤整備と、教育を通じた市民の資料保全意識の醸成に取り組み、**山形の知の基盤の構築**を進めていきます。

お問い合わせ

学術研究院准教授（博物館学）／附属博物館学芸研究員 佐藤琴

TEL 023-628-4930 メール koto-s@kdw.kj.yamagata-u.ac.jp

※用語解説

1 国立歴史民俗博物館（歴博）

国立歴史民俗博物館（National Museum of Japanese History）は、千葉県佐倉市の佐倉城址にある大学共同利用機関。日本の古代から現代までを総合的に研究・展示する博物館として1981年開館。

2 人間文化研究機構

人間文化研究機構（National Institutes for the Humanities）は、本部が東京に置かれている大学共同利用機関法人。2004年設立。国立歴史民俗博物館、国文学研究資料館、国立国語研究所、国際日本文化研究センター、総合地球環境学研究所、国立民族学博物館からなる。

3 総合資料学奨励研究

「総合資料学の創成」プロジェクトの趣旨に鑑み、より多くの研究者とともに多様な研究を行うべく、歴博が実施している単年度の公募型研究助成。大学などの研究機関に務める研究者が代表、歴博の教員が副代表となる共同研究のかたちをとる。

平成30年（2018年）7月5日

大学院生が「アフィニス夏の音楽祭」のプログラムを企画・運営 ～最後の山形開催を盛り上げる学生たちの試み～

【本件のポイント】

- 大学院地域教育文化研究科の大学院生が実行委員としてアフィニス夏の音楽祭2018の音楽交流プログラムの企画・運営を行っています。
- 山形での最後を飾るにふさわしい企画として、地域と音楽、人と人がつながる、楽しくて新しい音楽交流プログラムを目指し、取り組んでいます。



【概要】

毎年夏の時期に、世界のトップオーケストラ演奏家と全国のプロオーケストラ演奏家が一堂に集結し、コンサートやセミナーを行う音楽の祭典「アフィニス夏の音楽祭」。1年おきに、広島と山形を拠点として開催されていますが、今年は山形で5回目、最後の開催となります。音楽交流プログラムは、アフィニス夏の音楽祭の期間中、プロ演奏家から地域の方々へ、コンサート等を通して“音楽の贈り物”をするというプログラムです。山形大学大学院地域教育文化研究科文化創造専攻音楽芸術分野の大学院生たちが、この音楽交流プログラムの企画・運営に携わっています。

【音楽交流プログラムについて】

アフィニス夏の音楽祭の期間中、プロ演奏家から地域の方々へ、コンサート等を通して“音楽の贈り物”をするというプログラムです。2018年度は大学院地域教育文化研究科の大学院生7名が、実行委員会のメンバーとして、関係機関と連携しながら、下記の音楽交流プログラムの企画・運営に携わっています。

① 「gura で♭(フラット)! 夕涼みコンサート」

「夏の終わりを楽しむ」をコンセプトとし、ファミリー向けのコンサートとして企画しました。会場である「gura」は、2018年3月に、山形の食べものやデザイン、人々があつまる、「まちなかの居場所」としてオープンしました。その魅力的な場所で、子どもから大人まで楽しめる夏祭りのようなイベントにしたいと考えています。世界各国から集まる素晴らしい音楽家の方々による演奏を通して、お客様を「ぐらっと」感動させ、その瞬間を共有できたらと思います。

日時：8月21日（火）19：00開演（18：30開場）

会場：山形市旅籠町「gura」

② 「あるあーる de つながーる ふれあいコンサート」

会場を寒河江市にある障がい者就労支援事業所「gallery & café あるあーる」とし、同じ運営のもとにある「さくらんぼ共生園」の利用者様とご家族、周辺住民をはじめとする地域の皆様とアフィニス音楽祭メンバーとの交流コンサートとして企画しました。世界で活躍されている演奏家の音楽を間近で感じ交流していく中で、音楽を通して人々とのつながりや「共生」について感じ、アットホームな心あたたまる演奏会にしたいと思います。

日時：8月22日（水）11：00開演（10：30開場）

会場：寒河江市「gallery & café あるあーる」

お問い合わせ

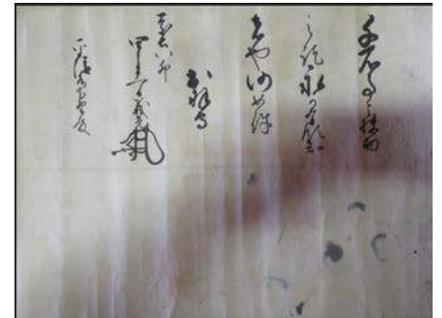
■山形県 企画振興部県民文化課	電話	023-630-2306
■山形交響楽協会事務局	電話	023-625-2203
■地域教育文化学部 藤野研究室	電話	023-628-4330

平成30年（2018年）7月5日

最上義光発給文書2点を発見しました

【本件のポイント】

- 最上義光発給文書2点（慶長8(1603)年4月11日付、慶長17(1612)年8月15日付）を新たに発見いたしました。
- 最上義光研究を進めるうえで無年号文書の年代特定は大きな問題となっていますが、その手がかりとなるのが、花押（サイン）です。今回発見された年号付文書は、本来この時期には使われていないとされる古い時代の花押が使用されており、これまでの議論に一石を投じる可能性があります。



【概要】

山形大学学術研究院 松尾剛次教授（日本史学）は、6月に、山形市内の個人宅において、卷子状になった2点の最上義光文書を見いだしました。1点は、慶長8(1603)年、千石を平清水氏に付与したものの、もう1点は慶長17(1612)年、平清水氏から系図・感状を借りたという借用状です。

最上義光研究は、近年ようやく研究が進みましたが、義光関連文書が少ないことが、研究上のネックとなっています。また研究を進めるうえで、無年号文書の年代特定は大きな問題となっています。その手がかりとなるのが、花押（サイン）です。今回発見した文書は、花押の形状や文字の見事さなどから判定すると本物である可能性は高いと考えられますが、本来この時期には使われていないとされる古い時代の花押（天正18(1590)年以前に使用された足利形花押）が使用されていました。最上義光が、源氏の継承者である徳川家康政権の成立にともない、かつての足利（源氏の一族）形花押も使用していたとも考えられます。

しかしながら、時期を異にして用いられる花押の存在は、花押による年代決定という手法そのものにも一石を投じる可能性を秘めており、今後、さらなる学術的な検証を重ね、最上義光研究を発展させたいと考えています。

【発見した文書について】

最上義光研究を進めるうえで、無年号文書の年代特定は大きな問題となっています。その手がかりとなるのが、花押（サイン）です。それゆえ、年号付文書で、花押の押された文書は大変重要です。

(1)

千石事、令扶助之訖、永可有領知者也、仍如件

慶長八卯

四月十一日

出羽守

義光（花押）

平清水下野殿

(2)

其家相承之足利・佐久間之両系図、并感状等、是をあつかり候事、尤可令返却もの也

慶長十七年八月十五日

義光（花押）

平清水下野殿

(1) 慶長8(1603)年4月11日付、千石を平清水氏に付与したものの。(2) 慶長17(1612)年8月15日付、平清水氏から系図・感状を借りたという借用状。これらには天正18(1590)年以前に使用された足利形花押が使用されていました。最上義光が、源氏の継承者である徳川家康政権の成立にともない、かつての足利（源氏の一族）形花押も使用していたのではないかと考えられます。

(1)も(2)も写しがありますが、これまでは、使用されている花押などから、偽文書とされ、顧みられることはありませんでした。しかし、これら従来偽文書とされてきたものは、今回発見した文書の写しであった可能性がでてきました。

【今後の展望】

今回、発見した文書は、花押の形状や文字の見事さなどから判定すると本物である可能性は高いものですが、本来この時期に使われていないとされる古い時代の花押が使用されており、今後解明すべき課題が含まれています。また、花押の変遷が年代決定の重要な手段とされてきましたが、時期を異にして用いられる花押の存在は、花押による年代決定という手法そのものにも一石を投じる可能性を秘めています。今後、さらなる学術的な検証を重ね、最上義光研究を発展させたいと考えています。

お問い合わせ

学術研究院教授（日本史学）松尾剛次

TEL 023-628-4917 メール kmatsuo@human.kj.yamagata-u.ac.jp

新発見の最上義光文書

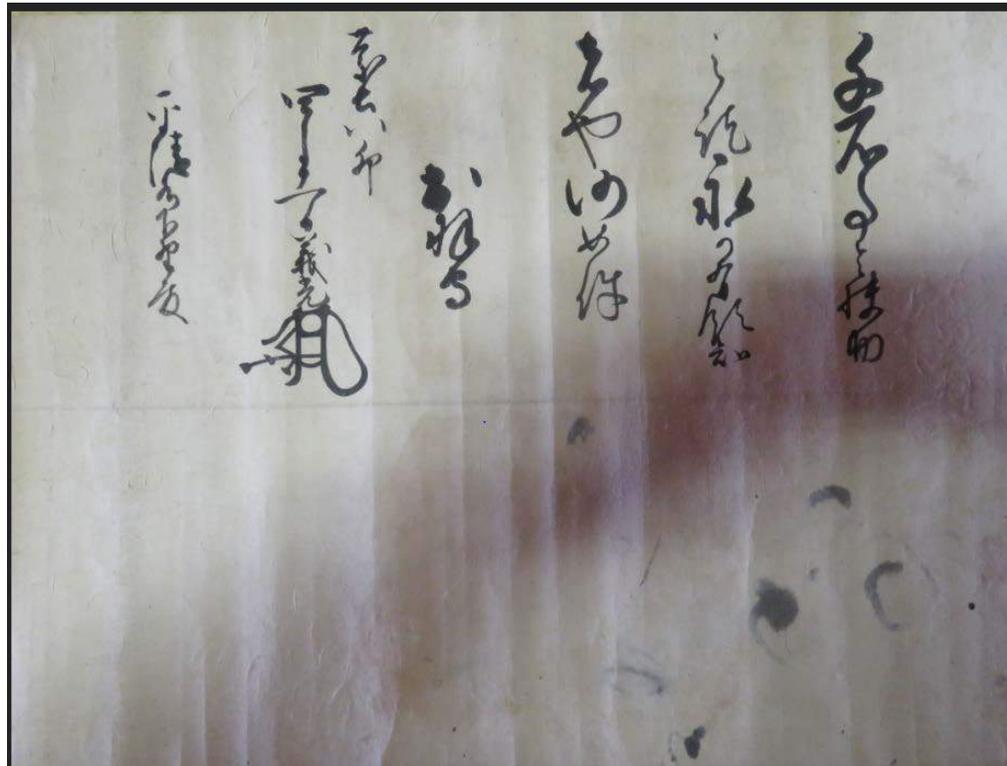
2018年7月5日

学術研究院教授（日本史学）松尾剛次

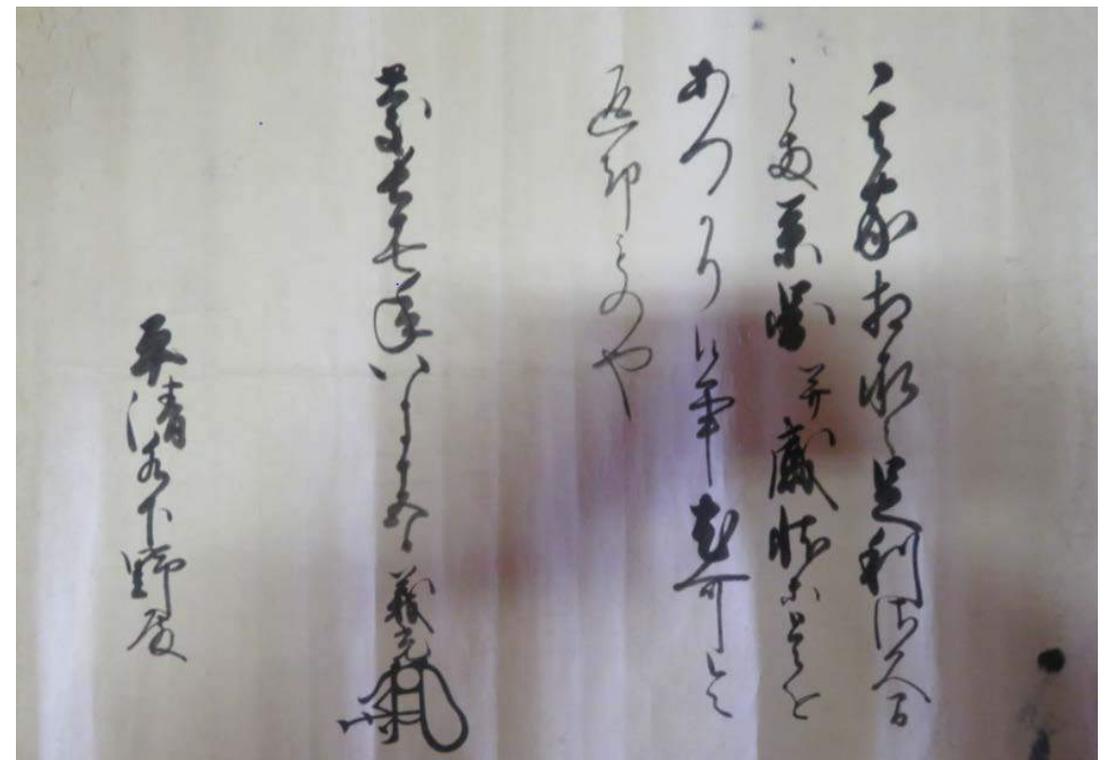
最上義光（1546－1614）文書（345点）を確認する旅

2点の最上義光文書（山形市内個人蔵）

慶長8（1603）年4月11日付
最上義光宛行状



慶長17（1612）年8月15日
付最上義光借用状



2点の義光文書

慶長8（1603）年4月14日付け最上義光宛行状

千石事、令扶助之訖、永可有領知者也、仍如件

慶長八卯

四月十一日

出羽守

義光(花押)

平清水下野殿

慶長17（1612）年8月15日
付最上義光書状（借用状）

其家相承之足利・佐久間之両系
凶、并感状等、是をあつまり候
事、尤可令返却もの也

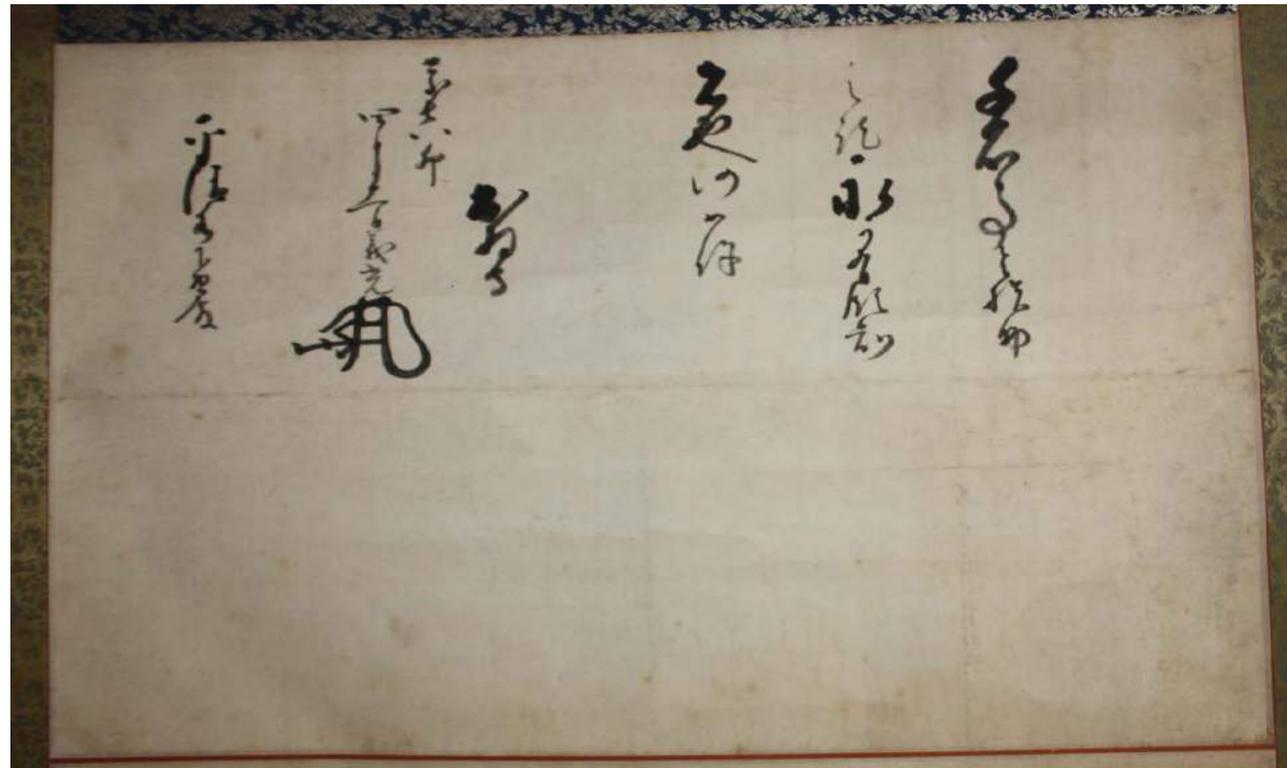
慶長十七年八月十五日

義光(花押)

平清水下野殿

発見の意義

1) 従来、図のような慶長8年4月11日付の文書（文書1）や貸借状の文面のみは知られていた。



発見の意義 2

- 2) しかしながら、捏造ではないかと疑問視されて、それらは無視されてきた。
- 理由は文書1の(1)紙や文字も良くない(写しと考えれば良いはず)、とりわけ(2)花押(サイン)が天正18(1590)年以前に使用されてきたA型である。慶長期には普通はC型花押が使用されている。
- 3) 他方、今回出現の2点の文書は、内容的にも、紙なども問題がない。
- それゆえ、ひとまず2点の文書が義光によって発給されたと考ええる。→次にA型花押をなぜ使ったのかが問題となる。

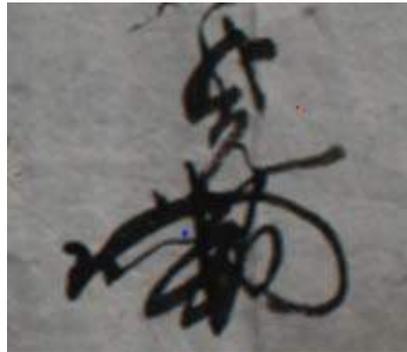
なぜ A 型花押なのか → 徳川政権（源氏） の誕生が背景では

B 型、C 型花押（出羽のサイン、豊臣方大名
時代、天正 19（1591）年以後に使用、
C 型は慶長期 < 1596 - 1614 >）

A 型花押（足利将軍型、源氏型、天
正 18（1590）年以前に使用）



B 型花押



C 型花押



参考 13 代
将軍足利義輝
花押

無年号文書の年代確定と花押変遷

- 花押（サイン）の変化による年代比定は重要である。
- C型花押は豊臣方大名時代をイメージさせる。
- 徳川政権時代となって、源氏時代の花押を書く場合もあったのでは。
- 2点の文書（慶長期のA型花押の使用）のように、家臣の願いに応じて徳川政権の誕生後はA型花押を書く場合もあったと考えるべきかもしれない。
- 源頼朝は、千葉常胤の願いによって、政所下文ではなく、自身の花押を据えた文書を発給したように、花押は人格的な関係のシンボルである。義光も、足利氏の流れをくむような部下には、文書に足利型のA型花押を書いたのではと考えたい。

平成30年7月5日
山形大学

* 詳細は別添の資料をご覧ください。

1. 高校生向けの国際学術講演会のご案内

～人文社会科学部国際学術講演会「国連・国際機関で働くということ」～

将来、国連や国際機関で働いてみたいと考えている高校生、国連や国際機関の活動に興味をお持ちの高校生向けの講演会を開催します。（一般の参加も可）

テーマ：「国連・国際機関で働くということ」

日時：7月12日(木) 16:30～17:30

場所：人文社会科学部1号館101教室

2. 山形大学農学部夏期セミナー2018のお知らせ

高校生を対象に、実験やフィールドワークを通して、農学部の最先端の研究を体験できるセミナーです。

日時：7月30日(月) 9:00～12:30

※事前予約要

3. 「21世紀の教育の創造—ほめる・叱るに替わる教育と子育て—」

～地域教育文化学部公開講座を開催について～

21世紀を担う子どもたちに、民主的な関係性を体験させることのできる親や教師としてのかかわりを学びます。

開催日程：8月29日(水)、9月5日(水)・12日(水)・19日(水)・26日(水)
18:00～20:00

場所：地域教育文化学部1号館114講義室

申込締切：7月31日(火)

4. オペラ指揮者の阪哲朗氏による学生の公開レッスンを行います

～山形大学と山形交響楽団の連携による音楽教育推進事業～

今年度2回目となる公開レッスンは、ヨーロッパの歌劇場で活躍中の、オペラに深く精通する、阪哲朗氏のレクチャーをはさみながらの公開レッスンです。

日時：8月30日(木) 18:00開演

場所：山形大学文化ホール

5. 火星大接近観望会のお知らせ ～天文台で火星みてみる？～

火星の最接近日に合わせて、ニクニドームやまがたで観望会を開催します。

日時：7月31日(火) 19:30～21:30（途中参加可）

場所：ニクニドームやまがた（やまがた天文台）

※裏面に続く

6. 学生達が1泊2日の英語キャンプに挑戦します

学生が英語力向上のため、英語のみによる実践教育活動に挑戦します。

日 時：7月7日（土）9：00～ 8日（日）15：00

場 所：小白川キャンパス 基盤教育1号館1階国際交流ラウンジ

一般財団法人地域協同社会研究センター協同の杜 J A 研修所（山形市東古館123番地）

※これまでの定例会見でお知らせしたもので、開催が迫っているイベント

◎「山形大学 Venture Café advised by Venture Café Tokyo」

「EDGE-NEXT」起業家人材育成プログラムの一環として、学生・県内企業・起業家・ベンチャー企業・投資家等が集うコミュニケーションの場を作るために、Venture Café TokyoのThursday Gathering のエッセンスを入れたイベントを山形大学でも開催します。

日 時：7月6日（金）18：30～20：00

場 所：山形テルサ 大会議室

◎ニクニドームやまがた「ゆかたで天文台」のお知らせ

ニクニドームやまがたでは、毎週土曜日にガイドツアー（天文台一般公開）を実施していますが、7月7日（土）は特別に「ゆかたで天文台」を開催。浴衣又は甚平で天文台にお越しの方は、通常200円のガイドツアー参加料が無料になります。

◎ウェスタンデジタルジャパン小池淳義社長を招き学長特別講演会開催

山形大学の3つの使命「地域創生」「次世代形成」「多文化共生」を発信するため、シリーズで開催している学長特別講演会の第12回目の開催が決定しました。講師に、ウェスタンデジタルジャパン小池淳義（こいけ あつよし）社長をお迎えし、米沢キャンパスで初めて実施します。

テーマ：IoT・大量データ・人工知能そしてその先にあるもの—シンギュラリティは近い

日 時：7月9日（月）16：30～18：00

場 所：山形大学米沢キャンパス

※参加無料（要申込）

◎人文社会科学部学生が企画する楽天イーグルスの集客イベント

きらやかスタジアムで開催される、楽天ゴールデンイーグルス対オリックスバファローズの一軍公式戦の集客を増やすことを具体的な課題とし、人文社会科学部の学生たちが、広報・イベント企画などに参画しています。

日 時：7月10日（火）18：00 試合開始

場 所：きらやかスタジアム（山形市総合スポーツセンター野球場）

平成30年（2018年）7月5日

高校生向けの国際学術講演会のご案内 ～人文社会科学部国際学術講演会「国連・国際機関で働くということ」～

【本件のポイント】

- 高大連携の事業として、高校生向けの講演会を行い、高校生に大学の研究内容について関心を持ってもらう機会とする。
- 国連職員の生の声、現場の様子を聞くことで、国際機関で働くことや大学進学への関心を高める効果が期待できる。



【概要】

人文社会科学部では、7月12日（木）に、高校生を対象とする国際学術講演会を開催します。「国連・国際機関で働くということ」をテーマに、国連世界食糧計画（WFP）でミャンマーの地域開発や支援を行っている渡辺裕史氏にお話いただきます。将来、国連や国際機関で働いてみたいと考えている高校生、国連や国際機関の活動に興味をお持ちの高校生向けの講演ですが、高校生以外の方のご参加も可能です。参加を希望される方は、人文社会科学部学務担当（連絡先は下記）までお申し込みください。

【人文社会科学部国際学術講演会】

日 時： 7月12日(木) 16時30分～17時30分

テーマ： 「国連・国際機関で働くということ」

場 所： 山形大学人文社会科学部1号館 101教室

対 象： 高校生（一般の参加も可）

人文社会科学部学務担当までメールで（kmkyom-jin@jm.kj.yamagata-u.ac.jp）お申し込みください。（当日まで受付）

【講師の紹介】 渡辺 裕史氏

専門商社勤務後、ケニア、ボツワナ、ガーナにてJICA長期専門家などを経て、現在、国連世界食糧計画(WFP) ミャンマー カチン州 ミッチーナ地域事務所長及びプログラムポリシーオフィサーとして勤務されています。
コーネル大学農業・農村開発修士

お問い合わせ

学術研究院准教授（東南アジア地域研究/国際協力論） 今村 真央／もしくは人文社会科学部総務担当

TEL 023-628-4283 総務担当 023-628-4203

メール imamura@human.kj.yamagata-u.ac.jp

参加申込先

人文社会科学部学務担当

メール kmkyom-jin@jm.kj.yamagata-u.ac.jp TEL 023-628-4207

山形大学農学部 夏期セミナー2018

7/30(月)

9:00~12:30

8:30~開講式

◆夏期セミナーとは！？

「食料系コース」「生命系コース」「環境系コース」に分かれ、実験やフィールドワークを通して、各分野に関する先端の研究を直接体験できる、高校生対象のセミナーです。【各コース定員20名】

◆タイムスケジュール

◆8:30~8:50 開講式

◆9:00~12:00 3コースに分かれて講義や実験を行います

食料系コース

果物のおいしい科学—
①かたちの秘密
②どこを食べているのか？

安全農産物生産学コース教授
平 智

担当教員の研究分野：
「果樹園芸学」

持ち物
筆記用具
服装
多少汚れてもかまわない服装

生命系コース

甘さの感覚を測定して
みよう～エダマメの食味
試験と糖濃度の測定

植物機能開発学コース教授
江頭 宏昌

担当教員の研究分野：
「植物遺伝資源学」

持ち物
筆記用具、電卓(スマホアプリでも可)
服装
多少汚れても構わない服装

環境系コース

森林の二酸化炭素吸収
機能について考えよう

森林科学コース准教授
吉村 謙一

担当教員の研究分野：
「森づくり論」

持ち物
筆記用具、野外で測定するので
飲み物
服装
多少汚れても構わない服装

◆12:00~12:30 閉講式

◆お申し込み方法は2通り！ ※事前予約が必要です！

申込〆切
7/23(月)

①FAXでのお申込み

【夏期セミナー受講申込用紙】
に必要な事項を記入いただき、
山形大学農学部企画広報室FAX
(0235-28-2836)までお送りく
ださい。

②Eメールでのお申込み

以下の必要事項を記載いただき、山形大学農学部企画広報室Eメール
アドレス(nosenken@jm.kj.yamagata-u.ac.jp)までお送りください。
なお、Eメールのタイトルは「夏期セミナー申込み」としてください。

* 必要事項 *

①受講者氏名 ②カナ氏名 ③性別 ④住所 ⑤高校名・学年
⑥電話番号 ⑦希望コース名(第2、第3希望がある場合は記載
してください)

【FAX用 夏期セミナー受講申込用紙】

食料系コース、生命系コース、環境系コースから1つ選んでください。
第2希望及び第3希望のコースがある場合は、順番に記入してください。
定員は各コース20人で、受付は先着順とします。

希望コース名： _____

フリガナ： _____

受講者氏名： _____ 性別： _____

住所： _____

高校名： _____ 学年： _____

電話： _____

E-mail： _____

その他（セミナーの内容について、質問・要望等ございましたら何でもご記入ください）

(_____)

申込締切：7月23日（月）（必着）

申込用紙送信先：ファックス番号 0235-28-2836

【本件に係る問い合わせ先】

〒997-8555 山形県鶴岡市若葉町1-23

山形大学農学部企画広報室 夏期セミナー係

Eメールアドレス nosenken@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

電話番号 0235-28-2911

平成30年（2018年）7月 5日

「21世紀の教育の創造—ほめる・叱るに替わる教育と子育て—」 ～地域教育文化学部公開講座の開催について～

【本件のポイント】

- 民主的な親子関係のあり方（理念）とそこでのコミュニケーション技法（方法）をセットで学べる親学習プログラムSTEPを中心に紹介。
- 幼稚園や保育所、小学校等の教育関係機関にお勤めの方から、育児にお悩みの方やより学習したいと意欲をお持ちの方等、様々な方にご参加いただいております。
- これまで計6回開催しており、リピーターの方もいる人気の公開講座です。今年度が最後の開講。



【概要】

地域教育文化学部では、公開講座「21世紀の教育の創造—ほめる・叱るに替わる教育と子育て—」を開催します。“ほめる・叱る”教育が、平成に生まれて育つ子どもたちとミスマッチ状態のようです。本講座では、民主的な親子関係のあり方（理念）とそこでのコミュニケーション技法（方法）をセットで学べる親学習プログラムSTEPを中心とした内容を紹介します。21世紀を担う子どもたちに、民主的な関係性を体験させることのできる親や教師としてのかわりを学びます。

2010年度から2012、2014、2015、2016、2017年度と継続して開催してきた人気のある公開講座ですが、今年度が最後の開催となります。

【21世紀の教育の創造—ほめる・叱るに替わる教育と子育て—】 詳細はチラシをご覧ください。

- ◆日 時：8月29日（水）
9月 5日（水）・12日（水）・19日（水）・26日（水）
18：00～20：00
- ◆場 所：地域教育文化学部1号館114講義室
- ◆対 象：一般市民（定員40名）
- ◆受講料：2,500円
- ◆申 込：7月31日（火）までに電話でお申し込みください。

お問い合わせ

山形大学小白川キャンパス事務部 地域教育文化学部事務室
TEL 023-628-4304



21世紀の教育の創造

-ほめる・叱るに替わる教育と子育て-

講座の概要

本講座では、民主的な親子関係のあり方（理念）とそこで用いられるべきコミュニケーション技法（方法）をワンセットで学べる親学習プログラムSTEPを中心とした内容を紹介し、21世紀を担う子どもたちに、現在の子ども時代に民主的な関係性を経験させることのできる親や教師としてのかかわりを学ぶ機会とする。

なお、本講座は、2010年に始まり、当公開講座として最後の第7弾である。

全5回 公開講座スケジュール

8月29日（水）、9月5日（水）・12日（水）・19日（水）・26日（水）

18時00分～20時00分

講座内容

- ① 8月29日（水） 『全般的理解の枠組みと不適切な行動の理解』
- ② 9月5日（水） 『子どもが問題を抱えたときの、子ども自身による問題解決へ向けた支援』
- ③ 9月12日（水） 『親・教師の問題に対するアプローチ（“注意・叱責”に替わるアプローチ）』
- ④ 9月19日（水） 『適切な行動へのアプローチ：勇気づけ（“ほめる”に替わるアプローチ）』
- ⑤ 9月26日（水） 『家族・学級集団における所属感を育てるアプローチ：集団による問題解決支援』

講師

山形大学地域教育文化学部

教授 松崎 学

受講対象

一般市民＜定員40名＞

受講料

2,500円

場所

山形大学地域教育文化学部
1号館114講義室（1F）

申込先・問合せ先

山形大学地域教育文化学部事務室

7月31日（火）までに
電話で申込ください。

〒990-8560 山形市小白川町1-4-12 TEL 023-628-4304

平成30年（2018年）7月5日

オペラ指揮者の阪哲朗氏による学生の公開レッスンを行います ～山形大学と山形交響楽団の連携による音楽教育推進事業～

【本件のポイント】

- オペラ指揮者として活躍する阪哲朗氏による公開レッスン。
- 平成29(2017)年度から実施している山形交響楽団との連携による音楽教育推進事業で、今回で4回目。（阪氏は昨年に続き2回目）
- 学生にとっては、世界で活躍するプロの音楽家から直接指導を受けられる絶好の機会。



【概要】

地域教育文化学部では、平成29年度から山形交響楽団との連携による音楽教育推進事業として、山形交響楽団定期演奏会における招聘音楽家を本学に招き、地域教育文化学部音楽芸術コースおよび文化創生コースの学生への公開レッスンを実施しています。

第4回目となる今回は、オペラ指揮者として活躍する阪哲朗氏を講師としてお迎えして8月30日（木）に実施します。ヨーロッパの歌劇場で活躍中の、オペラに深く精通する、同氏のレクチャーをはさみながらの公開レッスンとなります。学生たちにとっては、世界で活躍するプロの音楽家から直接指導を受けられる絶好の機会です。地域の皆さま方とこの貴重な時間を共有するためにレッスンを公開いたします。

【開催情報】

日時 平成30年8月30日（木） 18:30 開演

会場 山形大学文化ホール（小白川キャンパス）

入場料 無料

プログラム モーツァルト 歌劇「フィガロの結婚」より

1. 14番 三重唱「スザンナ、さあ出ておいで」 Susanna or via sortite

伯爵 2年 石井 柊

伯爵夫人 4年 伊藤 有里

スザンナ 4年 中村 春香

ピアニスト 未定

2. 17番 二重唱「ひどいぞ。どうして今まで私をこんなに焦れさせたんだ。」 Crudell! perchè finora

伯爵 3年 土田 拓志

スザンナ 2年 斎藤 すみれ

ピアニスト 未定

3. 21番 二重唱「そよ風に寄せる・・・」 sull'aria・・・ Che soave zeffiretto

伯爵夫人 院1年 大江 桃子

スザンナ 2年 藤本 弥奈美

ピアニスト 未定

<参考>過去の公開レッスン開催日／講師

平成29年5月11日／チェリスト・指揮者 鈴木秀美氏

平成29年9月1日／オペラ指揮者 阪 哲朗氏

平成30年6月8日／ホルン奏者・指揮者 ラデク・バボラーク氏

お問い合わせ

学術研究院教授（地域教育文化学部主担当） 渡辺 修身

TEL 023-628-4336 メール sammy@e.yamagata-u.ac.jp

しょうへい

招聘音楽家による 公開講座

2018

山形大学では、山形交響楽団との連携による音楽教育推進事業として、2017年度より、山形交響楽団定期演奏会の招聘音楽家による公開講座を行っています。2018年度は、世界的なホルン奏者で指揮者のラデク・バボラーク氏、ヨーロッパ各地の歌劇場で活躍している、指揮者の阪哲朗氏、古典派音楽に造詣が深い、チェリスト・指揮者の鈴木秀美氏をお招きし、地域教育文化学部の学生への公開レッスンをを行います。

興味のある方は、どなたでも聴講できます。
ぜひ、会場へお越しください。

第3回

2018 6/8 FRI 18:30~



講師紹介

ラデク・バボラーク [指揮・ホルン]

全世界で喝采を浴びる現代最高峰のホルンの名手。94年、ミュンヘン国際コンクールで優勝。これまで、チェコ・フィル、ミュンヘン・フィル、バンベルク響、ベルリン・フィルのソロ・ホルン奏者を歴任。また指揮者として、自ら設立したチェコ・シンフォニエッタの定期シリーズも開始。15年2月、新日本フィルにてグリエールのホルン協奏曲をソリスト兼指揮者として圧倒的名演で聴衆を魅了。18年4月より山形交響楽団客演指揮者に就任。

第4回

2018 8/30 THU 18:30~



講師紹介

阪 哲朗 [指揮]

ヨーロッパ各地の歌劇場で活躍している、日本を代表するオペラ指揮者の一人。95年、ブザンソン国際指揮者コンクールで優勝。08/09年年末年始に、ウィーン・フォルクスオーパーで、同歌劇場のハイライトとも言うべき公演である「こうもり」を指揮し、大変な話題となった。これまでに、ベルリン・コミッシェ・オーパー専属指揮者、山形交響楽団首席客演指揮者、レーゲンスブルク歌劇場(ドイツ・バイエルン州)音楽監督等を務めた。

第5回

2018 11/13 TUE 18:30~



講師紹介

鈴木 秀美 [指揮・チェロ]

古典派の大家。国内外で演奏活動を展開し、数多くのCDを発表。95年に日本人としては初めての、オリジナル楽器による「パツハ：無伴奏チェロ組曲全曲」を録音、平成7年度文化庁芸術作品賞を受賞。01年、オリジナル楽器で古典派を演奏するオーケストラ・リベラ・クラシカを設立。現在、東京芸術大学古楽科非常勤講師。山形交響楽団首席客演指揮者。雑司谷拝純亭終身楽長。

【曲 目】未定(決まり次第、地域教育文化学部HPへ掲載致します。) HP: <http://www.e.yamagata-u.ac.jp/>

【場 所】第3・4回：山形大学文化ホール / 第5回：文翔館議場ホール 《各回入場無料》

【お問い合わせ】渡辺修身研究室 TEL: 023-628-4336 Mail: sammy@e.yamagata-u.ac.jp

平成30年（2018年）7月5日

火星大接近観望会のお知らせ ～天文台で火星みてる？～

【本件のポイント】

- 2年に1度、火星は地球と接近する。今年は特に近く、明るく大きく見える。
- 最接近日である7月31日にニクニドームやまがた（やまがた天文台）で観望会を開催する。
- 見ごろは9月ごろまで続く。毎週土曜のガイドツアーも開催中。

【概要】

火星の最接近日に合わせて、7月31日にニクニドームやまがたで観望会を開催します。星のソムリエ®による解説を天候にかかわらず実施し、晴天時はニクニドームやまがたで望遠鏡等の機材を使って、火星の表面を観察します。



【イベント日程】

開催日 2018年7月31日（火）
開催時間 19：30－21：30（途中参加可）
開催場所 ニクニドームやまがた
受付場所 山形大学小白川キャンパス インフォメーションセンター
参加費 小学生以上 200円（NPO法人小さな天文学者の会会員は無料）
予約不要、駐車場有。終了時刻が遅いため、未成年の方は保護者と一緒においでください。

【イベント内容】

火星は約2年に一度、地球に接近します。その接近ぐあいは年によって違いがあり、今年は特に距離が近くなる「大接近」が起こります。今年の最接近時は火星までの距離が約5760万kmとなり、6000万kmよりも近づくのは15年ぶりとなります。火星は近いほど、大きく・明るく見えます。最接近時の火星は、木星よりも明るいマイナス2.8等級となり、夜空で最も明るい天体となります。視直径は約24秒角となり、望遠鏡で火星表面を観察するには絶好の機会です。

本イベントでは、星空案内人（星のソムリエ®）による火星に関する解説をインフォメーションセンターで行います。その後に、ニクニドームやまがたで、望遠鏡等の機材を使いながら、火星の観望を中心とした星空案内を行います。天の川をまたいで広がる夏の星座に、火星・木星・土星が華を添える夏の夜空を眺めてみませんか。曇天時には観望はできませんが、星のソムリエ®による解説は行います。本イベントは火星の最接近となる日に合わせて開催していますが、前後1か月ほどは火星が大きく明るく見える期間が続きます。毎週土曜に開催している、定例のガイドツアーへもぜひお越しください。

NPO法人小さな天文学者の会は、山形大学理学部と共同で、ニクニドームやまがたを運営しています。星のソムリエ®によるガイドツアーを毎週土曜日19時15分、19時45分、20時15分より開催しています。

ウェブサイト <http://astr-www.kj.yamagata-u.ac.jp/yao/>

お問い合わせ

学術研究院准教授（理学部主担当）・NPO法人小さな天文学者の会理事 中森健之
nakamori@sci.kj.yamagata-u.ac.jp
NPO法人 小さな天文学者の会 事務局
TEL 023-628-4050 メール astro-jim@sola.or.jp

火^{かせい}星 大接近

天文台で火星みてる？

7/31 19:30-21:30

夜遅くのイベントになりますので
保護者の方と一緒においでください



やまがた天文台

平成30年（2018年）7月5日

学生達が1泊2日の英語キャンプに挑戦します

【本件のポイント】

- 本学留学生と学生が交流することで、グローバル感覚を養うとともに、英語を身近に感じ、留学に興味を持ってもらうことを目的に、英語キャンプを開催します。
- 2日間、英語だけを使ってコミュニケーションをとることで、語学力アップを狙います。



【概要】

山形大学小白川キャンパス国際センターでは7月7日（土）～8日（日）の1泊2日で英語キャンプを開催します。これは、本学留学生と山形大学生の交流により、グローバル感覚を養うとともに、英語を身近に感じ、留学に興味を持ってもらうことを目的として開催するもので、今回で第6回目。

テキストなどを使用せずに、2日間、英語だけを使ってコミュニケーションを図ることで、語学力アップを狙います。また、留学への関心を高めるため、日本と諸外国の類似点と相違点に関するディスカッション等を行います。

【第6回英語キャンプについて】

- ◆日 時：平成30年7月7日（土）9：00
～8日（日）15：00
- ◆会 場：7日（土）9：00～12：00
小白川キャンパス
基盤教育1号館1階国際交流ラウンジ
7日（土）14：00～8日（日）15：00
一般財団法人地域協同社会研究センター
協同の杜 J A 研修所
(山形市東古館 123 番地)
- ◆参加者：本学学生24名（予定）
- ◆内 容：自然豊かな環境の中、学生が英語力向上のため、英語のみによる実践教育活動に挑戦します。具体的には、日本と諸外国の類似点と相違点に関するディスカッション等を行います。

※この事業は山形大学校友会の支援を受けて実施します。



第6回 英語キャンプ
Let's speak English!

30 hours USING only English!
Meet international students!
No textbooks! No lectures!
Just speaking and communicating!

7月 7日 土曜日 ～ 7月 8日 日曜日 1泊

- ・会 場：小白川キャンパス・協同の杜JA研修所
- ・日 程：7月 7日(土)09:00～7月 8日(日)16:00
- ・対 象：I want to speak English AND/OR I'm interested in studying abroadの気持ち
- ・参加料：**無料!**（1日目の昼食は自己負担）
- ・定 員：24名（応募者多数の場合は抽選になります）

名前・学部・学年を明記の上、メールで申し込んでください。
E: gloagd@kdw.kj.yamagata-u.ac.jp

申込の〆切は 6月22日(金) 13:00まで

問合せ：基盤教育1号館2F TEL: 023-628-4483
(グローグ ダグラス)



お問い合わせ

山形大学小白川キャンパス事務部 学生課 留学支援担当(折原)
TEL 023-628-4927